

V 特記事項

V. 特記事項

1. 専門教育と教養教育のバランス

本学幼児保育学科は幼稚園教諭二種免許状と保育士資格、介護福祉学科は介護福祉士の資格取得を目指す専門職の養成機関であり、各学科のカリキュラムは文部科学省、厚生労働省の定めるところを基にして編成されている。両学科ともに2年間でいかに専門教育を深めるかが中核的な課題だが、同時に短期大学として、教養教育も重要な課題である。保育も介護も人と関わる仕事であり、専門性の向上は人間性の育成と切り離すことができないため、その意味でも教養教育の果たす役割は大きい。

両学科とも教養の土台として、建学の精神を学ぶ科目、日本語、外国語、情報処理の科目を備えている。その上で、幼児保育学科の特徴としては芸術系科目の開講が多いこと（音楽系科目3、美術系科目3、身体表現科目1）、介護福祉学科の特徴としては「人間と社会の理解」に区分される科目が多いことが挙げられる。これは時間割上の制約がある中で、それぞれの専門職に求められる教養の内容を吟味し、その充実を図ったものである。今後も各学科の教養教育の質を高めるべく検討を重ねる。

2. 少人数でのアクティブラーニング

教育の効果を高めるため、幼児保育学科ではすべての演習および一部の講義科目について、2クラスもしくは4クラスに学生を分けて授業を行っている。ピアノレッスンでは個々の技能に応じたきめ細かい指導を行うために、4クラスをそれぞれ5グループに分けており、「英語」、「保育内容総論」、「指導計画論」にも教員を複数配置し、進度や学習内容に応じた指導ができる体制にしている。介護福祉学科は令和元(2019)年度の学生数が10人と少なかったため、少人数での指導が行えた。

本学ではアクティブラーニングを積極的に取り入れ、グループ・ディスカッション、事例検討、ロールプレイング（模擬保育等）、パワーポイントを使用した学習発表、レスポンスカード、学生による相互評価等を実施している。また、自己評価や相互評価にはルーブリック評価を取り入れ、学習目標を明確化するよう図っている。

3. 教職員によるきめ細かい学生支援

幼児保育学科ではゼミナール担当教員、介護福祉学科では「初年次セミナー（学習の目的と技術）」のグループ担当教員が中心となって学生のきめ細かい支援にあたり、教職員は学科教授会等で学生についての情報を共有している。

退学防止策として、教務委員会が行う出欠状況調査に基づき、欠席の増えた学生には学生面談、保護者への欠席状況の通知、保護者との面談などを行っている。資格取得の条件にGPAの基準を設けているため、それに達しない学生に対しても同様である。また、幼児保育学科では資格必修科目の単位が修得できなかった場合は、再履修できるように時間割の編成に努める、単位互換制度を利用して八戸学院大学で単位を修得させる、科目等履修生として卒業後に単位を修得させるなどの支援を行っている。